

日文解説(解説和文)

第1課 届出

学校の授業や会社を休まなければならないときには、必ず何らかの形で届出をしておきます。遅刻するときや早退するときにも、なるべく早く連絡するようにしましょう。無断で欠席や欠勤をしたり、遅刻や早退を連絡しなかったりすると、周りの人に心配させ、迷惑をかけることになります。会社などでは届出の書式が決まっているところもあります。

連絡をするときには、必ず理由をはっきり告げます。また欠席や早退などをした場合には、その次に出席したときに、必ず報告するようにします。そのときには、相手に心配をかけたのですから、一言「すみません」とか「ご心配をかけました」などの言葉を付け加えるとよい印象を与えます。

日本では、外出するときに隣人などに会った場合、出かけるのでよろしく頼むという意味の、一種のあいさつをするのが習慣になっています。また、家族の間でも、どこへ行くか、何分ぐらいで帰ってくるかを一言告げてから出かけるといいでしょう。

第2課 指示と依頼

人に何かをしてもらうよう頼んだり指示したりするときの表現は様々です。場面の状況や相手によって使われる言葉は変わります。相手に負担が大きいことを頼むときや目上の人に頼むときには遠慮がちな表現になります。命令の気持ちが強く出る言い方は避けたほうがいいでしょう。もし適切でない言い方で強い指示や依頼の言い方を選ぶと、人間関係を損うことがあります。相手や場面に応じて言葉の使い方に気をつけましょう。

また、人からものを頼まれるとき(例えば通訳を頼まれるときなど)、人から指示を受けるとき(病院で診察を受けるときなど)、相手の言っていることを的確に把握して行動すべきです。特に日本語に特徴的な表現には注意し、指示や依頼の内容がはっきりしないときには、丁寧な言い方で確認する必要があります。

第3課 掃除

学校では放課後、会社では朝仕事を始める前や夕方仕事が終わったときなどに、皆で掃除をすることがよくあります。掃除道具がどこにあるか確認しておき、掃除の仕方や道具の使い方が分からないときは先輩に教えてもらっておきましょう。

家での掃除は各家庭によってやり方や回数が異なります。少し前まではほうきで掃いたり、はたきでちりを落としたりした後、雑巾がけをするようなやり方が多かったのですが、このごろでは多くの家庭が電気掃除機を使って掃除をするようになりましたし、掃除用の

洗剤もいろいろな種類のものが出回っています。

また、日本では畳や床をきれいにしておく習慣があります。間違っても床につばを吐いたり、食べ物のかすを捨てたりしてはいけません。

第4課 洗濯

今日では、ほとんどの家庭に洗濯機があり、たいていのものは家で簡単に洗えます。子供のいる家庭では洗濯は毎日の仕事で、主婦は朝起きると洗濯機を回し、天気がよければふとんを干したりもします。

洗濯をするときは、洗濯機の表示を参考に、洗うものの量、品質、汚れの程度に応じて水や洗剤の量、洗濯時間を決めます。汚れのひどいものは洗濯機だけではきれいにならないので、先につまみ洗いし、また毛糸やおしゃれ着はクリーニング屋に出すか、毛糸洗いの洗剤で手洗いした方がいいでしょう。また、ものによっては水洗いできず、ドライクリーニングでなければならないものもあります。洗濯方法については、衣類の裏側に品質表示とともに書いたラベルがありますから、買うときに確認しておきましょう。(P196第7課会話-6参照)

家に洗濯機がない場合はコインランドリーを利用することができます。コインランドリーでは100～200円で洗濯機が使えるほか、乾燥機を使って乾かすこともできます。(その場合は別にお金が必要です。)コインランドリーは学生などにとって大変便利です。梅雨時などは乾燥機だけを利用しにくる人もいます。また、毛布などが洗えるような大きい洗濯機を備えているところもあります。

第5課 料理(1)

伝統的な日本の朝食は、ごはんにみそ汁、それにおかずが、海苔・漬物・卵・つくだに・納豆・焼魚・梅干しなどの中から1品か2品です。最近はパン食も大分普及してきて、トーストにコーヒー・紅茶又はミルク、生野菜や卵などにする家庭も増えていますが、1日に1度はみそ汁を飲みたいという人が大半でしょう。主婦は毎朝の食事に変化をもたせるため、みそ汁に入れるものをいろいろ工夫します。

日本の食卓では、まず見た目を大事にします。「目で食べる」という言葉があるくらいです。おかずの盛り付けはたいてい一人分ずつ別の器を用います。漬物などはときどき一つの皿に盛り付けることもあります。普通そういうおかずはとりばしを用います。特にお客さんのいるときや客になったときなど、自分の食べているはしでとるのは不作法です。

はしの使い方にはいろいろなきまりがありますが、いずれも、みんなが気持ちよくおいしく食事をするためのルールです。

みんなが食卓にそろったら「いただきます」とあいさつして食べ始めます。食事が済んだときのあいさつは「ごちそうさまでした」です。

第6課 料理(2)

日本の家庭の食事には、伝統的な日本の料理のほかにいろいろな外国の料理が取り入れられ、それが日本流にアレンジされて定着してしまったものがたくさんあります。カレーライス、焼きそば、ラーメンなど、多くの日本人が好んでよく食べるものは、もともとは外国の食べものだったと思われますが、今では典型的な日本の料理と言っていいでしょう。そして現在でもいろいろな国の料理を家庭の食事に取り入れることが盛んで、イタリアのスパゲッティや中国の餃子が夕食の食卓に並ぶことも珍しくありません。料理の雑誌や新聞の家庭欄などにもよく紹介記事が載っています。知り合いの家庭と得意料理の作り方を交換をすることもあつていいでしょう。そんな機会があつたら積極的に利用して、中国料理の作り方を教え、日本料理の作り方を教えてもらいましょう。

第7課 服装

日本人の服装と言えは、まず第一に着物があげられます。着物は日本の気候にも日本人のスタイルにも適していて、長い間日本人は着物を着て日常生活を送っていましたが、着方や手入れが大変なのと活動に適さないことから次第に洋服が着られるようになってきました。このごろでは、特に若い人は、いつも洋服を着ていて、お正月や結婚式などの特別な機会にしか着物は着ません。

最近では町を歩いたりすると最新流行の服で身を固めた人たちが目に付きます。日本人は身なりに気をつかい、衣類にお金を使うと考えられていますが、何もだれもが高価な服や流行の服を着ているというわけではありませんし、その必要もありません。ただ、場所や季節、時間を考え、また目的に合った服装をするように心がけるといいでしょう。会社で働くときには普通男の人はスーツにネクタイ、女の人はワンピースとかブラウスにスカートとかを着ますが、配色、組合せを考え、あまり派手なものや普段着的なものは避けたほうがいいでしょう。また、日本ではシャツをズボンの上に出して着たり、シャツの前ボタンを開けて着たりするのはだらしがないと考えられますので、自宅以外では慎んだほうがいいでしょう。

店で服を買うときには、試着して大きさや形を確かめてから買うといいでしょう。またそのとき、洗濯方法も確認しておくといいでしょう。洗濯方法の表示は普通その洋服の内側にラベルがついていますが、分からなければ店の人に聞けば教えてくれます。

第8課 器具

電気器具やガス器具は最近どんどん開発、改良され、いろいろな製品が生活の中に取り入れられてきています。こういった器具は大変便利で生活を豊かにしてくれますが、反面、ちょっと使い方を誤ると、時折新聞やテレビのニュースで見るとような大惨事を引き起こすことにもなりかねません。したがって、取り扱いの際には十分注意しなければなりません。それぞれの器具には丁寧な取扱説明書がついていますから、よく確かめてから使用するようにしましょう。また、購入の際にお店の人に頼めば分かりやすく説明してくれますし、取り付けのときには実際に使用方法をやってみせてくれますから、よく説明を聞いて正しく安全に使いましょう。

故障についても取扱説明書に記述がありますが、よく分からないときは購入した店に連絡するといいいでしょう。たいていの器具には保証期間があり、その期間内の故障は、故障の種類にもよりますが、修理代が無料になることもあるので、これについても確かめておくといいいでしょう。

第9課 日曜大工

家の改築や電気製品の修理などは専門家に頼まなくてはなりませんが、家庭内の簡単な取り付けや組立ては道具と部品さえあれば多くのものは自分で作業できます。棚をつったりカーテンを作ったり、犬小屋や子供のおもちゃを作ったり、また、このごろは組立て式の本棚や整理だんす、ワゴンなども多くあります。組立て式のものはたいてい部品をセットにして売っていて、組立て方の説明書も付いていますから、その指示に従って作業をすればいいわけですが、そうでないものは自分で考えて設計し、必要な部品類をそろえなければなりません。部品や道具は金物屋や雑貨屋、あるいはデパートの日曜大工コーナーなどで売っていますし、本屋の趣味・実用書コーナーには作り方の説明書や図・写真などがついた本があるので参考にするといいでしょう。

アパートや借家に住んでいて部屋の内部を改装したいときには、あらかじめ大家さんの承諾を得る必要があります。無断で釘を打ったり壁に穴をあけたりすると、後で問題になるので気をつけましょう。(アパートを借りるとき、契約書をよく読んでおくといいいでしょう。)

けがをしたときは、軽いものなら消毒をして薬をつけたりばんそうこうをはったりしておけばいいですが、ひどいけがをした場合には外科の病院でみてもらいます。家庭内に救急箱を用意して、よく使う薬や体温計、包帯などを入れて、いつでも使えるようにしておくといいいでしょう。